

# 横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年10月)

## 《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

### ◇ 全数把握の対象

#### 〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	31件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レプトスピラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	4件	水痘(入院例に限る)	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	梅毒	14件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が23件(うち無症状病原体保有者が6件)、O26が1件(無症状病原体保有者)、O111が1件(無症状病原体保有者)、O103が2件、O128が1件(無症状病原体保有者)、O血清群不明が3件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 4件の報告がありました(うち無症状病原体保有者が2件)。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 レプトスピラ症: 1件の報告がありました。沖縄県での水系感染が推定されています。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件ありました。そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS3件の報告がありました。いずれも男性で、そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 11 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が4件ありました。いずれもワクチン接種歴不明です。
- 12 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件の報告がありました。性別は男性11件、女性3件で、いずれも性的接触による感染が推定されています。

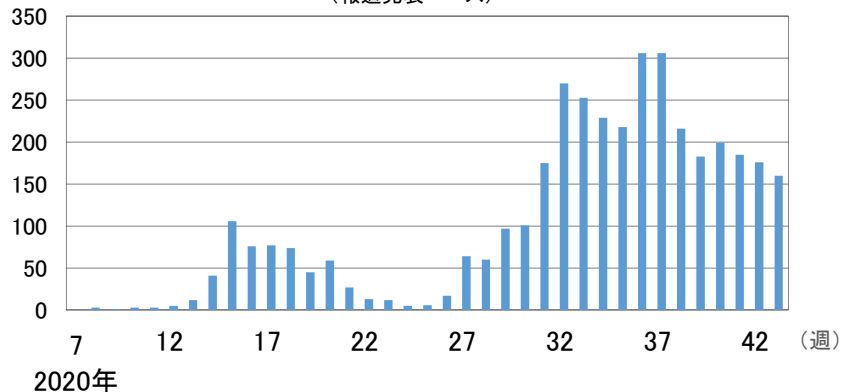
### ◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)(件)

第38週～第43週に横浜市から報道発表のありました症例は1119件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

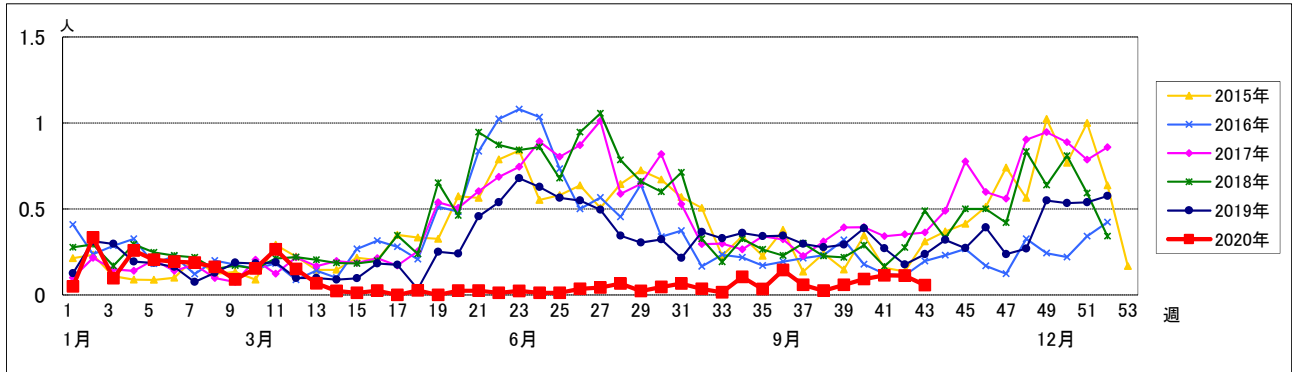
新型コロナウイルス感染症報告数  
(報道発表ベース)



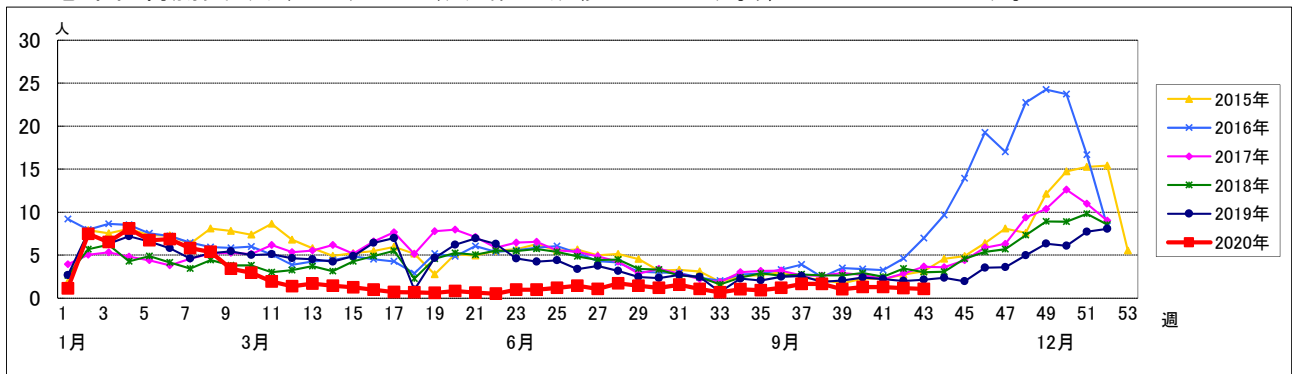
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第38週	9月14日～9月20日
第39週	9月21日～9月27日
第40週	9月28日～10月4日
第41週	10月5日～10月11日
第42週	10月12日～10月18日
第43週	10月19日～10月25日

1 咽頭結膜熱: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は0.06です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は1.06です。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月期(第39週～第43週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点21件、内科定点2件、眼科定点3件、基幹定点からは4件でした。

11月6日現在、表に示したライノウイルスの遺伝子10例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果10月期(2020年第39週～第43週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
ライノ	7	2	1
合計	7	2	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

10月期(2020年第39週～第43週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、過粘稠性クレブジエラ2件、非結核性抗酸菌(NTM)2件、レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌24件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からボツリヌス毒素2件、レプトスピラ4件、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第39週～第43週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
基幹定点	腸管出血性大腸菌	3	O157 : H7 VT1 VT2 (3)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)		
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)		
	過粘稠性クレブジエラ	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)		
	非結核性抗酸菌	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> (2)		
	レンサ球菌	1	<i>Streptococcus mitis</i> group (1)		
保健所	腸管出血性大腸菌	24	O157 : H7 VT1 VT2 (13)、O157 : H7 VT2 (4)、O157 VT1 VT2 (2)、O26:H11 VT1 (1)、O103 : H2 VT1 (1)、O111 VT1 VT2 (1)、O128 : H2 VT1 VT2 (1)、OUT:H7 VT2 (1)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)		
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	<i>Streptococcus agalactiae</i> (2)		
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)		
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)		
	分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
	保健所	血清・便	ボツリヌス	2	ボツリヌス毒素陰性 (2)
尿・血清・全血		レプトスピラ	4	<i>Leptospira interrogans</i> (nested PCR) (2)、抗体価陰性・nested PCR 陰性 (2)	
喀痰		レジオネラ	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】